

1 学校教育目標

○よく考え進んでやりぬく子 ○あかるく強くたくましい子 ○みんな仲よく助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○基礎学力、道徳心、基礎体力を確実に高めることができる学校 ○児童、保護者、地域、教師が協働し、安全、安心で皆から愛される学校
○児童・生徒像	○友達を大切にし、相手の立場を考えて行動し、どのような人とも公平公正に関わることができる児童 ○様々なことに挑戦し、目標に向かって努力し、課題解決しようとする児童
○教師像	○子供たちに深い愛情を注ぎ、いけないことはいけないと毅然とした指導ができる教師 ○教師仲間同士協力し、助け合い、鹿一小の子供たちの成長を伸ばすことができる教師 ○子供と共に協力し、授業力向上のために努力を惜しまない教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○地域が協力的であり、「私たちの町の学校」という雰囲気をもっている。そのため子供たちが校外で遊んでいる場面でもいけないことをしっかり指導してくれ、子供たちを温かく見守ってくれている。

○子供たちはとても素直であり、教師の指導に従順に従って行動できる反面、教師の指示を待っているのみで、自ら考えて行動することができる児童が多いとは言えない点が課題である。時に教師側が過干渉になり、児童の思考を止めてしまうことがある。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項ー1 学力の向上 ○基礎学力向上策を充実させ、定着を図る→区調査通過率 80%以上=R4 年度 2 科達成 単元テスト通過率 80%

重点的な取組事項ー2 授業力の向上並びに学力の向上 ○若手研、主任研を実施し一定の授業力向上を図る。学力向上は継続課題。

重点的な取組事項ー3 幼保小中の連携 ○連携の推進と円滑な接続をめざす。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	授業力の向上並びに学力、体力の向上	○	○	○	○	○
3	幼保小中の連携と道徳心の向上	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
・単元テスト 80%以上を学級の80%以上を達成する		・区調査通過率 80% ・単元テスト 80%以上		・国 81.6% 算 84.7 ・国 76.7% 算 74%		区調査では一定の成果を上げたが、単元テストでは目標を下回った。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	休業中の 単元克服 特別講習	CD層児童 算数	各長期 休業中	・校長が到達目標値の低い 単元を厳選し、短期集中の 克服講習を実施する	・修了認定テ ストにて評価	・講習終了ごと にテストでの 到達 85%	1年生、5年生に対し 10の合成分解、割合 の単元で実施。	終了テストにて 70% の成果であった。	△
継続	パワーア ップタイ ム	全児童 算数 国語	朝の 時間	・各学級、専科教員が基礎 基本の習熟を図る。	・小テストで も得点確認	・小テストの 到達 90%以上	予定した日程を 100%実施した。	小テストでは常に 90%を超えた。	○
継続	プレイバ ックタイ ム	CD層児童 算数 国語	放課後	・CD層の児童を放課後に基 礎基本の習熟のために指 導する	・小テストで も得点確認	・小テストの 到達 90%以上	予定した日程を 100%実施した。	小テストでは常に 90%を超えた。	◎
継続	朝読書	全児童 国語	水の朝	・全学級で朝の 15 分間集 中して読書をする。	決まった本を しっかり読ん でいるか	読書カードに て冊数の確認	予定した日程を 100%実施した。	決められた日の読書 がしっかりできた	○
継続	ICT 機器の 有効な活用	全教員 全教科	随時	ICT 機器の効果的な活用を 推進する。AI ドリルの効果 的な活用	年3回中 1 回 の授業観察時	ICT 機器を使用 した授業を行 う。	AI ドリル教科月間で は区平均を超えた	ICT の活用が確実に 定着している。	◎
継続	家庭学習 の定着と 充実	全児童 国語 算数	毎日	【指導者】各担任 【目的】学習内容の定着及び 家庭学習の習慣化。 AI ドリルを活用し達成度を 把握する。	毎日の家庭学 習状況の点検 と実施率把握	全員 100%	全校の宿題平均提出 率 90%	高学年になると提出 率が下降する傾向が 見られる。	△
新規	昼学習	1, 2年児 童 CD層	毎日	1年生 10の合成分解 2年生 九九検定	成果テスト	全員 100%	成果テストにて平均 85%	D層の児童が定着し ないことが課題	△

重点的な取組事項－2		授業力の向上並びに学力、体力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年での学習内容の確実な定着 ・基礎体力の向上 		<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト—通過率(国算2科)80%以上の児童を学級の80%以上 区調査令和4年度目標通過率80% ・体力調査区平均を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国 81.6% 算 84.7 ・国 76.7% 算 74% ・体力調査は区平均を下回る 	区調査では一定の成果を上げたが、単元テストでは目標を下回った。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
パワーアップタイム	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書(水) ・基礎学習(火、木) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査分析を基に学年全体の課題となる内容を吟味し段階的に定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIドリルを中心に実施した。 ・漢字の小テストや計算の小テストを実施し、一定の成果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIドリルでは常に高得点をマークする児童が多くいた。今後はこの意欲を継続できるようにしていく。 	○
放課後補充指導・補習指導の充実	全学年原則毎日	<ul style="list-style-type: none"> ・全校体制で指導に取り組む。系統化した内容を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校体制で実施し、副担任の専科教員も参加し、指導にあたった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が協力して実施することで、児童の意欲も高まってできた。 	○
校長塾の実施	校長による個別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・毎昼休みの補充教室に下位層の児童を取り出し、管理職が指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の10の合成分解、くり上がりくり下がり加法、減法 ・2年生かけ算九九の習熟 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日続けることで一定の効果があった。小テストにおいて複数の児童が100点を取ることができた。 	○
【指導力向上】 校内初任研、若手研修会、ミドルリーダー研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・初任研、若手研、ミドルリーダー研各20回 授業観察後の「アドバイスシート」を発行し啓発 ・校長室だより「おおぞら」にて授業スキルの紹介 	【指導者体制】 初任、若手研(校長、主幹教諭、主任教諭)ミドルリーダー研修(副校長、主幹教諭) 【目的】 授業観察を軸とした授業力指導力向上リーダーシップ力育成	<ul style="list-style-type: none"> ・若手研修会、主任研修会を実施し、若手教員からは日頃の指導に役に立ったという感想が多くあった。 ・主任研修に関しては主幹教諭や副校長が中心となって実施し、教員のモチベーションの向上に寄与した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月若手研修会・主任研修会を実施できた。今後は、若手がどんなことに悩みがあるかを年度当初にアンケート調査を実施し、ニーズに合った研修にしていく。 	◎

長縄チャレンジ、持久走チャレンジの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・長縄チャレンジは8の字跳び区平均以上 ・持久走チャレンジは初回の自己記録よりも10%以上伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季期間に持久力向上のための長縄月間、持久走月間を設定し計測的に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走チャレンジは実施せず、代わりに体力向上ゲームを体育委員会が企画運営して実施。 ・長縄チャレンジは1月下旬から10日間実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上ゲームにしたことで、意欲的にゲームに取り組むことができた。 	○
---------------------	--	---	--	--	---

重点的な取組事項－3	幼保小中の連携と道徳心の向上
-------------------	----------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な連携ができたと考える教員100% ・学校評価3.5以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な連携ができたと回答した教員が93%であった。 ・学校評価では平均評定3.8 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらの取組も一定の成果があったと捉えている。 	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校教員との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・準備委員会2回 各校1回ずつ授業公開・研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の研究授業実施（年2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業2回完全実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者の決定の仕方に偏りが見られる部会の実施方法を改善していく。 	◎
保育園との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の保護者会参加 ・給食、学習交流 ・避難訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長保護者会での校長講話の実施（各園1回） ・10月に給食と学習交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・谷在家保育園、足立このみ保育園にて実施 ・園児が実際に小学校の生活を体験することができた 	1月31日に谷在家保育園の保護者会にて、入学までにおこなってほしいことを話す予定。	◎
教員同士と児童、生徒同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の情報交換 ・年長、1年担任との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有会の開催（年2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めと2月に教員同士の交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に給食交流を行った際に情報交換を実施し次年度入学児童の様子を 	◎
道徳心の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業アンケートを児童からとり、道徳授業が役立つ回答を90%以上目標 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の道徳授業の工夫をする。道徳授業の基礎基本を学ぶ。道徳的価値の大切さを児童が理解できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長が各学年の授業を実際に行なって道徳心の向上を図るよう率先垂範できた。授業コンペをとおして互いに切磋琢磨できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳心の向上は日々の教育活動の充実が大切である。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【今年度の成果】

- 今年度より昼のパワーアップタイムを朝と放課後に設定したことで、時程にゆとりが生まれ、短時間でしっかりとした習熟ができた。
- 保育園との交流が3年ぶりに実施できたことで、5歳児が小学校へ向けての期待をもつことができた。
- 学力面において単元テストの通過率が昨年度より国語で1ポイント、算数では10ポイント増加した。
- 2月の学力定着度調査結果
- ◇通過率 国語 81% 算数 80.5%

【今年度の課題】

- 朝読書の時間の減少とともに、本を読む量も減少した。
- 園児の交流ができたが、教員同士の交流の機会を2回は実施していく必要がある。特に年度末に行うことが肝要である。
- 単元テストにおける単元差が大きく算数では図形や数量領域に課題が見られた。国語では物語文の読解に課題が見られた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度は、新しくアートエデュケーションプログラムや三味線教室、投げ方教室等を新規に取り入れて実施するなど、新しい取組も実施しました。次年度は59周年となり60周年の記念式典等の準備期間となります。鹿浜第一小学校の新たな伝統の構築とこれまで培ってきた伝統的な活動をしっかりと融合させて次年度の教育活動も充実させていきます。これまでも、これからも鹿浜第一小学校が益々、充実、発展していくように教職員一同取り組んで参りますので、保護者、地域の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- 挨拶、返事、靴そろえの3つを励行し、学校内での基本的な生活習慣を確実に身に付けられるように指導しています。
- いじめのない学校づくりを目指し、いじめ未解決ゼロとなっています。
- 鹿浜第一小学校では子供たちが意欲的に学習に取り組めるように日々授業の工夫をしています。高学年では今年度から一部教科担任制を導入し、より専門性の高い授業を展開できるようにしています。(5年生 算数、理科、社会、図工、音楽、家庭科)(6年生 算数、理科、社会、国語、音楽、図工、家庭科)
- 展覧会では日頃の学習成果を発表する場として様残な作品を見ていただきました。